

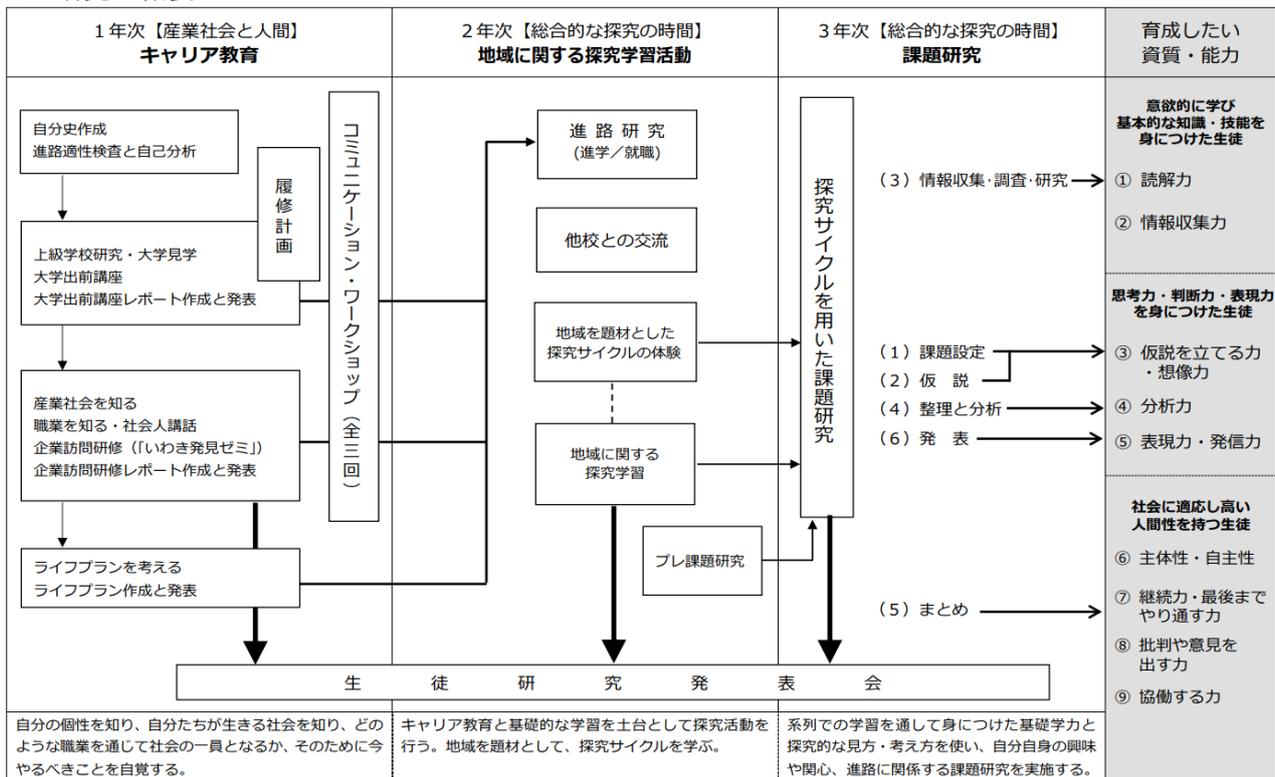
「探究的な学び」と「コミュニケーション力の育成」をキャリア教育の一環として位置付けた、資質・能力を育成するための、3年間を通じた計画的な取組について

福島県立いわき総合高等学校 教諭 伊藤 沙緒里

1 研究の趣旨

将来を模索する生徒が自分自身の在り方を考え、課題を発見し、解決していく「社会の変化に対応できる生き抜く力」の育成を重視している。そのため、3年間を通じた計画的な取組により、生徒の資質・能力の伸長が図られるのではないかと考え、本研究に取り組んできた。

2 研究の概要



3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ルーブリック評価の分析から、1年次は②情報収集力、④分析力、⑤表現力・発信力、⑥主体性・自主性、⑦継続力・最後までやり通す力において、3年次は①読解力、④分析力において、資質・能力の高まりが見られた。
- 学校評価から、コミュニケーション力育成についての肯定的回答が94%に及び、本校の取組が資質・能力の育成につながっているとの認識が高いことがわかった。また、キャリア教育についての肯定的回答が96%に及び、本校の取組が生徒のキャリア形成につながっているとの認識が高いことがわかった。

(2) 今後の課題

- 進路に応じた10コースを新設し選択科目を整えるとともに、探究の深まりを図り、産社・総探・課研の連携を強化するため、2年次の総探を増単するなど、教育課程の見直しが必要である。
- 校是や育成したい資質・能力の変更も踏まえたルーブリックの再設定を行うとともに、ルーブリックの段階（レベル）の設定の見直しを行うなど、評価指標の見直しが必要である。
- 担当部署の補強及び業務内容を他の分掌に分散についての検討の継続が必要である。